

市長発言要旨

【発表事項】

（環境省）脱炭素先行地域の選定について

本日（令和7年5月9日）、環境省が実施している「脱炭素先行地域」の選考におきまして、米沢市と飯豊町を主たる提案者とする共同提案計画が選定されました。

今年度から令和12年度までの6年間で、米沢市と飯豊町において、肉用牛の牛糞を使ったバイオガス発電事業・小水力発電事業などを展開します。また、米沢市の食肉加工センターでは、木質バイオマス発電・太陽光発電を導入し、肥育から加工まで米沢牛のサプライチェーン全体の脱炭素化を実現します。

提案者には、米沢市・飯豊町に加えて、山形県、米沢食肉公社、東北おひさま発電、山形おきたま農業協同組合、金融機関など25の企業・団体に加わっていただいております。

事業期間は本年度から令和12年度の6年間。総事業費は122億円。米沢市分が71億3千万、飯豊町が50億9千万円。このうち、全体で50億9千万円が国からの交付金となります。

脱炭素先行地域に本県から選ばれるのは初めてとなります。

本市、飯豊町とも昨年は別々に応募し、昨年9月末に不採択となりました。その直後に、お互いに共通の事業もあることから共同することで合意、米沢市としては風力事業を取り除くなど、事業を大きく再編しての挑戦となりました。

米沢牛は今年で誕生150年となります。生産量の6割を占める、米沢市・飯豊町がバイオガス発電による脱炭素化で、新しい米沢牛のブランド価値を創造できると確信しているほか、米沢牛など畜産の懸案である糞尿の処理の課題を解決し、畜産生産の競争力強化にもつなげたいと考えます。

この事業採択を機に、地域の特性を生かした脱炭素化を進め、置賜地域での横展開も視野に置き、全国に波及できるようなモデルを目指してまいります。